

遺跡・遺物が語る!? 秦野の歴史 2012

平成 24 年 4 月 3 日(火) ~ 6 月 24 日(日)



旧石器時代の秦野

秦野で最も古い時代の遺跡^{いせき}は、小田急線秦野駅南口の近くにある太岳院遺跡^{たいがくいん いせき}です。この遺跡からはナイフ形石器とよばれる石の道具が発見されています。この石器を木

の棒^{ぼう}の先につけ、狩り^かをおこなっていたと考えられています。土器は発明されておらず、移動をしながらキャンプをしてイノシシやシカなどを捕^{つか}まえて生活していました。この時代を「旧石器時代」とよんでいます。

縄文時代の暮らし

今から1万6千年前に粘土をこねて、焼いた器、「土器」が発明されました。この発明によって、「煮る」ことができるようになり、これまで食べることができなかった木の実などを食べられるようになりました。

また、同じ時期に弓矢も使われ、イヌとともに狩りをおこなうようになりました。

狩りやどんぐりなどの木の実を集めて生活し、地面を掘って造った^{たてあな}竪穴建物とよばれる家に住んでいました。この時代は土器に縄を転がした跡があることから「縄文時代」とよんでいます。

縄文時代の秦野

およそ5千年前から秦野地域の遺跡の数が増えます。ムラの規模は大きくなり、台地の上に広がっていきます。

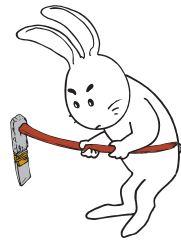
東小学校周辺の寺山遺跡^{てらやまいせき}の発掘調査^{はくつちようさ}で見つかった墓には、遺体^{いたい}をおさめる細長い穴の中に、小さな土器が1個ずつ埋められていました。また、床に石を敷いた竪穴建物も発見されています。秦野地域では、このような石をたくさん使って造った遺構が多く^{ゆか}の遺跡でみつかっています。



縄文土器

弥生時代の暮らし

今から2800年くらい前、中国大陸から朝鮮半島をへて、九州に米づくりが伝わります。



大陸から伝わった文化と縄文文化がまざり新しい文化が生まれました。米づくりを始めても石器を使って道具を作り、狩りもおこなっていました。また、大陸から新しい種類の石器や鉄などの金属が伝えられ、農具や武器、かざりに使われました。そして、縄文土器よりもうすくて硬い土器^{かた}が作られるようになりました。この土器は東京都文京区弥生町^{とうきょうとうぶんきやうくやよいちやう}で初めて発見されたことから「弥生土器」とよび、この時代を「弥生時代」とよんでいます。

弥生時代の秦野

弥生時代のムラは水田をつくるのに適した湿地^{しつち}の近くに営まれます。秦野^{ひらさわ}では平沢付近^{おおね}や大根・鶴巻^{つるまき}地区に大きなムラがつけられました。

南矢名^{みなみやな}の砂田台遺跡^{すなだだいせき}の発掘調査では、建物群の周りを囲むように溝が発見されています。このようなムラを「環濠集落^{かんごうしゅうらく}」とよびます。また、大陸から伝えられた石器^{てつけん}や鉄剣^{てつけん}をつくりかえた鉄製品が見つかっています。これらの道具を使って木を切り、木製品を作ったのでしょう。

米作りはムラ人の共同作業が多いため人々をまとめる指導者^{しどうしゃ}（首長^{しゅちやう}）が現れます。首長は、ムラをまとめ、お祭りをおこ

ない、^{くだ}管玉や^{せいでうせいしる}まが玉などの玉類、青銅製 釧
 (ブレスレット) や^{ゆびわ}指輪などで身を飾り、
 武器である鉄剣を持つ者もいました。また、
 「^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓」とよばれるお墓に埋葬され
 ました。

首長の中には他のムラを支配し地域の支
 配者(^{ごうぞく}豪族) となるものも現れます。やが
 て、小さく^をにつくり「王」とよばれる
 ようになります。



弥生土器

巨大古墳と大王

今から 1700 年くらい前に日本列島各地
 で古墳がつくれ、古墳時代が始まります。

古墳は初め大王や有力豪族など広い地域の
 支配者の大きな墓でした。次第に、ムラ
 などのせまい範囲の支配者も古墳をつくる
 ようになり、その家族も葬られました。

秦野では、古墳時代初めの頃の大きな古
 墳はみつかりませんが、終わりのころ
 の古墳は約 100 基みつかりしています。ほと
 んどの古墳の形は^{さくらどてこふんぐん}桜土手古墳群のような円
 形をした「^{えんぼん}円墳」ですが、^{ふたごづかこふん}二子塚古墳だけ
 は^{ぜんぽうこうえんぼん}カギ穴の形をした「前方後円墳」です。

古墳時代の秦野

^{ひがしたわらななまる いせき}東田原中丸 遺跡

には、数少ない古墳
 時代初めのころの
 ムラがありました。



炉の様子

当時の人は床の中
 央に^ろ炉をつくった^ろ竪穴建物に住み、ムラの
 近くには水田がつくられました。

古墳時代の終わりころの人々は、大陸か
 ら伝わったカマドで煮たきをするようにな
 ります。当時、秦野盆地には、水無川を境
 に南北に2つの大きなムラありました。一
 方、大根・鶴巻地区は小さな台地ごとにム
 ラが営まれていました。この時期につくら
 れた大きなムラは、その後 300 年以上続く
 ことになります



カマドの様子

二子塚古墳と銀装圭頭大刀

二子塚古墳は、市内でただ1基の前方後
 円墳です。平成 22(2010)年の発掘調査では
 遺体を埋葬する^{まいそう}石室の中から^{せきしつ}銀の装飾が
 ほどこされた^{たち}大刀「^{ぎんそうけいとう}銀装圭頭大刀」が見つ
 かりました。調査によって、6 世紀の終わ
 りから 7 世紀の古墳であることがわかりま

した。大刀の発見によって地域の首長がねむる墓であった可能性があります。



発見時の銀装圭頭大刀

奈良時代の秦野

今から 1200 年くらい前のムラは古墳時代の終わりのころから引き続き営まれていました。また、秦野周辺は「余綾郡幡多郷」とよばれる地域で、当時から「はた」とよばれていました。

秦野盆地の水無川北側のムラ(草山遺跡)は、現在の県立秦野曾屋高校の周辺にありました。このムラは台地の上に家々がつくられ、そのまわりに豆等を作る畑が広がっていました。近くの水田で米をつくり、周囲の雑木林でシカなどの動物を獲って食料にしていました。また、イワシなどの海



奈良・平安時代の土器

平安時代の秦野

今から 1000 年くらい前になると、古墳時代の終わりから続いていたムラが一気にな

くなります。その理由はわかっていませんが、秦野地域の人々は住み慣れたところを離れ、各所に分散して移り住みました。

発掘調査ではまだムラが見つからないため、その詳しい様子はわかりません。しかし、人々が移り住んだ場所は、現在、水田が広がる四十八瀬川、室川、金目川の周辺のやや小高い場所と考えています。

武士の世の中と秦野

今から 900 年くらい前になると、「幡多郷」にかわって「波多野庄」がつけられます。やがて「波多野」を名乗る一族が領主となります。波多野一族は、源氏の家来として岩手や京都で活躍します。

鎌倉時代になると、一族は御家人として幕府の役人になります。また、一部の人は、西日本の各地に領地を与えられ地頭として現地に移り住みます。

東田原中丸遺跡



平成 13(2001)年、東田原中丸遺跡から「波多野一族」の館が発見されました。この館がつけられた時代は今から 800 年くらい前になります。一部を調査しただけなので、詳しくはわかりませんが、堀に囲まれた館

ではありませんでした。今でも調査を続けているため、将来もっと多くのことがわかるようになると思います。

宝永の大噴火と秦野

江戸時代のなかごろの宝永4（1707）年に富士山が噴火し、多くの被害をもたらしました。噴火によって、富士山から100kmも離れた江戸まで火山灰が積もりました

秦野では、灰が1尺4～5寸（約40cm）積もったという記録が残っています。

多くの畑は、灰によって埋まってしまい作物をつくることができなくなってしまいました。農民はそれにめげず、天地返しと呼ばれる畑の土を掘りだして、火山灰をうめて良い土をだすという作業をおこないました。その結果、畑で作物が育つようになりました。当時の苦勞によって現在でも畑



として利用できるのです。

天地返し跡(戸川周辺)

秦野と学童疎開

近代国家に成長した日本は、勢力を拡大するため戦争へと向かっていきます。昭和16(1941)年に太平洋戦争が始まりました。戦況が悪くなるとアメリカ軍のB29とよばれる飛行機が爆弾を積み、東京などの都市、軍事施設などに爆弾を落としていきました。

空襲をさけるため、横浜市の学校は秦野を疎開先のひとつとして、秦野のお寺や旅館で生活をしました。朝は5時半に起床し、午前8時から午後4時まで勉強し、午後8時に就寝していたようです。学習時間以外では、農家の作業を手伝っていました。終戦し、疎開が終っても横浜市の各学校と秦野の地域の交流が続きました。

おわりに

秦野地域には旧石器時代から徐々に人が住み始め、古墳時代の終わりから現在に至るまで人々が絶えず住み続けています。人々の痕跡は、遺跡、古文書、石仏など様々なかたちで残っています。いろいろな場所に残されている歴史のかけらを探してみませんか。

春期特別展 「遺跡・遺物が語る!? 秦野の歴史 2012」




発行 2012年4月3日

編集 秦野市立桜土手古墳展示館

住所：神奈川県秦野市堀山下380-3

TEL：0463-87-5542 FAX：0463-87-5794

旧石器時代から室町時代までの歴史年表

時間軸	日本での出来事	全国の主な遺跡	秦野の主な遺跡	北海道	沖縄	世界の歴史							
紀元前	BC 40000 BC 15000 旧石器	日本列島に人が移住する	下地原洞穴(沖縄)	太岳院遺跡	旧石器	700万以上前に人類が誕生							
	草創期	土器が作られ始める 季節的な定住の開始	大平山 遺跡(青森) 上黒岩岩陰遺跡(愛媛)	太岳院遺跡	沖縄 縄文文化 前期	メソポタミア文明 エジプト文明 インダス文明							
		早期	漆(うるし)製品が作られ始める	上野原遺跡(鹿児島)		東田原八幡遺跡	黄河文明 アンデス文明						
	前期	気候が暖かくなり 海面が上昇	羽根尾貝塚(神奈川)	草山遺跡		イギリスストーンヘンジが 建てられる							
	中期	大規模なムラがつくられる 一部の食物を栽培	加曽利貝塚(千葉) 三内丸山遺跡(青森)	今泉峰遺跡 東開戸遺跡		イギリスストーンヘンジが 建てられる							
		後期	東日本で環状列石がつくられる	大湯遺跡(秋田) 寺野東遺跡(栃木)		寺山遺跡 太岳院遺跡 曾屋吹上遺跡	シャカが生まれる 仏教が生まれる マヤ文明						
	晩期	亀ヶ岡文化が広がる 九州北部に稲作が伝わる	亀ヶ岡遺跡(青森) 板付遺跡(福岡)	平沢遺跡 堂坂遺跡		アレクサンドロス大王の東方遠征							
	紀元	弥生	水田稲作の開始 鉄器・青銅器が伝わる	朝日遺跡(愛知) 唐古鍵遺跡(奈良) 登呂遺跡(静岡) 王子ノ台遺跡(神奈川) 大塚歳勝土遺跡(神奈川) 吉野ヶ里遺跡(佐賀) 青谷上寺地遺跡(鳥取)		平沢遺跡 根丸島遺跡 砂田台遺跡 大原遺跡 東田原中丸遺跡	続縄文	始皇帝が中国を統一					
			1					委奴国王が後漢に遣使(金印)	ローマ帝国ができる				
		2	倭国王帥が後漢に遣使						イエスが生まれる				
		3	卑弥呼(ひみこ)が使者をおくる 卑弥呼(ひみこ)が亡くなる						口・マ帝国が東西に分裂				
		4	大和朝による統一が進む 前方後円墳が盛んに作られる						東田原中丸遺跡 二子塚古墳 桜土手古墳群 西大竹尾尻遺跡群 草山遺跡 根丸島遺跡	西ローマ帝国が滅亡			
			5							大陸から漢字や織物などの文化が伝来 カマド須恵器(すえき)の使用	隋が中国を統一		
		6	飛鳥時代							藤ノ木古墳(奈良) 飛鳥池遺跡(奈良) 常呂遺跡(北海道)	ムハンマドがイスラム教を開く		
			7								仏教伝来 聖徳太子が撰数となる 十七条の憲法が制定される 小野妹子(おののいもこ)が使者として中国へ 大化の改新 王申(じんしん)の乱 大宝律令が定められる 都を平城京(奈良)に移す	唐が中国を統一	
8		奈良	奈良の東大寺に大仏ができる 都を平安京(京都)に移す								多賀城(宮城) 相模国府(神奈川)	イスラム帝国ができる 新羅が朝鮮半島を統一	
9		藤原一族が力をつけ始める	柳ノ御所遺跡(岩手)		製紙法が唐からヨーロッパまで伝わる								
10		かな文字の使用 藤原道長(ふじわらのみちなが)が摂政(せつしょう)となる			西大竹尾尻遺跡群 草山遺跡 根丸島遺跡						ヨーロッパで封建制度が整う		
		11									武士が力をつけ始める 平清盛(たいらのきよもり)が太政(たじょう)大臣なる 源氏が平氏を滅ぼす	宋が中国を統一	
12		鎌倉											
13													源頼朝(みとものよりとも)が鎌倉(かまくら)に幕府(ばくふ)を開く 新しい仏教が広まる 元寇(げんこう) 鎌倉幕府が滅びる 建武の新政
14		室町											十三湊遺跡(青森)
	15			足利尊氏(あしかがたかうじ)が京都に幕府を開く 南北朝の統一 金閣寺の建立 応仁の乱 銀閣寺の建立		マルコ = ポーロが元の都に着く 元が宋を滅ぼす イタリアルネサンスが始まる 朱元璋が明を建国							
15	インカ帝国ができる コロンブス アメリカ大陸に到達	草戸千軒遺跡(広島) 安土城(滋賀) 首里城(沖縄)		下大槻城山遺跡 東田原中丸遺跡		アイヌ	三山						